



熊本県議会議員

# 高島和男がゆく

令和3年3月号



## 2月定例会開会中

2月18日から3月18日までの日程で定例会が開会中です。今回は216億円を追加する20年度補正予算案と8651億円の来年度当初予算案を審議しています。

### 【2月補正予算案】216億円

- ・コロナ感染症患者が入院する病床の確保
- ・コロナ禍で収入が減少した個人向け緊急小口資金の貸付原資の増額
- ・営業時間短縮に応じた飲食店と直接・間接の取引先や外出・移動の自粛で甚大な影響を受けた中小事業者への一時金 など

### 【21年度当初予算案】8651億円 熊本地震対応の17年度に次ぐ大型予算

- ①7月豪雨災害からの復興 587億円
  - ・被災者、地域の復旧復興に向けた取り組み
  - ・全域で取り組む災害に強い郷土づくり
- ②コロナ感染症を踏まえた対応 816億円
  - ・対策の体制強化
  - ・コロナ後を見据えた持続可能な社会と経済活動の実現
- ③熊本地震からの創造的復興 333億円
- ④将来に向けた地方創生の取組み 69億円
  - ・若者の地元定着と次世代を担う人材育成
  - ・誰もが安心・安全に暮らせる社会と魅力ある地域づくり など



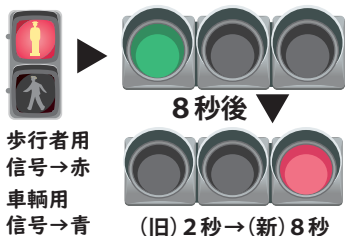
※ コロナ対策、豪雨災害対応は県民の命や暮らしを守る急務であり歳出拡大も避けられません。しかも経済が大きな打撃を受け引き続き歳入の大幅減収が予想され従来の事業、歳出を精査し、単年度収支だけでなく長期的なコストの低減と新たな税源の捻出も必須です。次世代を念頭に「適切性」「公平性」の視点で支出のあり方をチェックします。

## 舞原交差点信号機

2秒から8秒へ

昨年、隈庄小PTAから「舞原交差点を渡って登下校する児童が毎日約200人いますが、変則かつ交通量も多く歩行者、車輛用の信号機が変わるたびに不安な思いで見守っています。子どもたちの安全を向上する改良ができないでしょうか」との相談を受けました。早速関係機関に依頼して現地調査、検討した結果、2月10日から以下のように変更しました。

①の歩行者用信号機が赤になって②の車両用信号機が青から赤に変わる所要時間がこれまで2秒でした。それを今回8秒に延しました。たかが6秒と思われるかもしれませんが、③から交差点にくる運転手は余裕を持って直進、右左折できるように横断歩道を渡る子どもたちははじめ歩行者の安全の向上に繋がります。子どもたちは勿論、横断歩道の歩行者は何よりも優先されます。



8秒後に②の車輛用信号が赤になります

③からの車が直進・右左折しやすく

## インターン生との面談

2月3日、参議院の藤末健三議員事務所で活動している2人のインターン生が訪ねて来ました。私は市議時代から毎年春と夏、インターン生を受け入れていました。近年思うところがあつて控えていましたので久しぶりの大学生との対話でした。短い時間ではありましたが真っ直ぐな視線、初々しい態度や対話を通じてこれ以上『負の遺産』を残してはいけない…と強く感じたのでした。以下2人の感想を紹介します。



高島議員はお子さんもいらっしやって、PTA活動の経験から私たち学生ではないから教育のことについてお話を聞かせていただきました。

私が義務教育の中で勉強だけでなく社会に出たときに必要なマナーを学ばせるのはどうかとお聞きしたときに、今の教師は仕事内容が多く教師希望が少ないから、負担が大きいのではというお話を聞きました。その話をお聞きして私は、自分のことしか考えてなかったなと考えさせられました。別の立場に立って考えてみることで見えてくるものがあつて、熊本の将来を考えるとすることは一つの立場ではなく色々な人のことを考えなければならぬということに改めて勉強することができました。議員の方は常にそれを考えられていて、それがどれだけすごいことかを実感することができました。

また、高島議員は「良くなったよ」と地元の方に言っていたことが一番嬉しいとおっしゃっていました。地元の声というのが一番身近で、正直な言葉であるため、地元の方に言っていたくために地元を思っ日々活動されていると知ることができました。

PTAを経験され、お子さんもいらっしやる高島議員だからこそ言える教育のことをお聞きして、熊本の将来の教育を考える私たちにとってはすごく勉強することができました。

熊本学園大学商学部  
ホス・ピタリテイ・マネジメント学科

1年 寺井萌

今回私たちは「今後の熊本」と「教育」についてを重点的に高島議員にお話ししていただきました。今後の熊本という点では、熊本の魅力をお聞きした際にそれは地域や人によってそれぞれだとおっしゃられたことが強く印象に残っています。私の考える熊本の魅力とは「水」や「自然」などの言葉に表せるものまたは、目に見えるものだと思います。しかし、目には見えないそれぞれの中にある熊本の魅力をこそが熊本が発展する鍵となり、それを見出すことができたならばもつと熊本のことを好きになれると思います。

また、教育の点で疑問に思っていることを高島議員にぶつけたところ私は学生側の立場や視点でしか問題点を捉えることができていかなかったことに気がつきました。物事をさまざまな視点から見ることが今後の発展につながることを強く感じました。学校とは学生だけをつくるものではなく、学校の中にいる先生の他に保護者の方、地域全体でつくりあげることが今後の教育に必要なもので、残していかなければならないものだということを学びました。そのための環境づくりを一人一人日本人が考える必要があります。

今回、この2点についてお話しさせていただきました。改めて自分の未熟さや視野の狭さを痛感いたしました。これからは、私たちの世代が日本を支えていく世代へとなっていきます。今回お話しいただいたことを肝に銘じながら地元熊本に恩返しができる人材へ成長したいと思います。

熊本学園大学商学部  
ホス・ピタリテイ・マネジメント学科

1年 緒方愛珠

